

報道関係者各位

人とペットが作る笑顔あふれる社会のために

マース ジャパン リミテッド News Letter

March 2008

「猫と引越するときのヒント」

「猫は家につき、犬は人につく」といわれます。犬はオーナーとの関係性によって自分の居場所を捉える一方で、どちらかというと猫は自分自身の生活圏ありきということでしょうか。以前は、飼い猫でも屋内外を自由に移動し、犬とは少し飼育方法も違っていました。しかし最近では、猫の室内飼育も進み、猫と人の関係性もやや変化してきているように見えます。それでも、引越しとなるとやはり犬よりも猫のほうが神経質になりがちで、新居にも慣れにくいいため、ちょっとした配慮をしてあげる必要があります。

まずは、引越し当日。引越し業者が来る前に、猫を静かな部屋かキャリーに入れ、安心できる状態にしてあげます。猫は生活環境の変化を非常に嫌がるので、いつもと違う雰囲気や引越しの騒々しさに不安になったり、うさぎがったりしてどこかに雲隠れしてしまうことも心配されます。そうした状況をさけるためにも、なるべく猫が安心できる環境を用意することが重要です。そして、自家用車を使って転居先へ移動する場合も、必ず猫をキャリーに入れましょう。

新居に着いたら、引越し業者や友人が帰り、家の中が落ち着くまでは猫をキャリーの中で過ごさせ、ドアや窓をしっかりと閉めたのを確認した上で、キャリーから出して新しい家に迎えてあげます。キャリーから出ると、部屋のあちこちを歩き、家具などにマーキングしながら自分の縄張り作りを始めます。できればまず最初の2-3日をかけて一つの部屋から慣れさせ、徐々に新居全体に活動範囲を広げていくという方法がよいでしょう。また、屋外に出す場合でも、新居に移ってから少なくとも2週間は家の中で過ごさせ、そこを新しい住み家としてしっかりと認識させることが必要です。

猫は非常に縄張り意識が強いため、引越し先の敷地でも先客の猫が縄張りを主張してくることがあります。初めの数週間は、外に出る時間を短めにし、そばについてあげてください。また、他の猫に向かって身構えたり、シャーという声を上げたりすることがありますが、自分の縄張りを主張する自然な行動なので特に心配する必要はありません。

もし万が一猫がいなくなってしまった場合は、生垣や床下など猫が隠れそうな場所を探すと共に、近所の動物病院、保健所、動物保護施設などにも忘れずに連絡を入れておきましょう。首輪に電話番号と住所を書いておくと、どこかで保護されたとき、迅速に連絡を受けることができます。

そしてもちろん、転居先のコミュニティや集合住宅におけるペット飼育のルールを確認することは責任あるペット飼育の基本です。猫同士の縄張り主張のにらみ合いはさておき、新しく出会ったお隣さんやペットオーナー同士は、マナーを守りルールを共有することで、ペットとともに新しい町での生活をより楽しくスタートさせることができるでしょう。

マース ジャパンは、製品や社会貢献活動を通して、人とペットが共に暮らす笑顔あふれる社会の実現を目指しています。このニュースレターは、マース ジャパンが人とペットの共生をテーマにした研究や支援活動を目的に 1997 年に設立したリサーチセンターである非営利団体コンパニオンアニマル リサーチ (CAIRC) とマース オーストラリアがサポートするコンパニオンアニマルに関わる活動を推進している PIAS と協力して発行しています。

お問い合わせ: マース ジャパン リミテッド 広報室 小川 電話: 03-5434-3311

マース ジャパン リミテッドは、世界 65 カ国以上で菓子、食品・飲料、ペットケア & ペットフード事業を展開している米マース インコーポレイテッド(本社: 米国バージニア州マクレーン、創立: 1911 年)の日本法人として 1976 年に設立、ペットフード事業とスナック菓子事業を展開している。主軸事業のペットフード製品ではペディグリー®、カルカン®ウイスカス®、シーザー®、シーバ®、パーフェクトフィット®、グリニーズ™等のトップブランドを持ち、国内市場シェア No.1。国内従業員数は約 250 名。マース グループ全体の総従業員数は 40,000 名以上、2006 年度の世界における年間総売上高は 210 億米ドル。マース ジャパンのホームページは、www.marsjapan.co.jp

